



はな 花は、どうしてきれいなのか

はな むし 花は、虫などを呼ぶため目立つ色をしている

はな しょくぶつ しそん たね つく ひつよう たね おな しゅるい
花は、植物が子孫をふやす種を作るために必要なものです。種ができるには、同じ種類の
ほかの花のおしべの花粉を、めしべに運んでもらわなければなりません。たいていの花は、
はな かぶん はこ
チョウやハチなどのこん虫や、鳥などに、花粉を運んでもらっています。そのためには、
はな どうぶつ よ
これらの動物がたくさん寄ってくるように、花や、あまいみつがある場所が、目立たなければ
なりません。よく目立つ、きれいな花をもつ植物が、子孫を残し、競争に勝って生きの
びてきたといえます。スギやトウモロコシ、コムギなどの花粉は、風が運んでくれますから、
むし よ ひつよう はな じみ めだ
虫などを呼ぶ必要はありません。これらの花は、地味で目立ちません。

ちゅう しがいせん いろ み こん虫は、紫外線で色を見ている

あか き あおいろ
赤や黄や青色は、ミツバチやたいていのこん虫には、見分けられません。チョウや鳥た
ち、はっきり見分けますし、これらの色の花には、よくやってきます。最近、チョウやミ
ツバチや、ちゅう おお しがいせん いろ み
こん虫の多くは、紫外線で色を見ることができるとなりました。
にんげん め めだ しろ はな しがいせん きゆうしゅう せいしつ しがいせん はんしゃ
人間の目には目立たない白い花が、紫外線を吸収する性質があったり、紫外線を反射し
ている花などもあることがわかってきました。これらの花は、チョウやミツバチなどには、
にんげん はな
人間とはちがった色で、くっきり目立って見えているようです。花や虫にとって大事な、め
しべのついてある部分とか、みつのある部分が、とくに目立つ、あか きいろ しがいせん きゆうしゅう
赤や黄色、紫外線を吸収
する黄白色などになっている花が多いものです。これは、にんげん め み はな うつく
人間の目から見ると、花が美しく見えるデザインになっているのです。（監修・矢野 亮）

